

**会報「麗和」で締める感謝の1年！**

●会報「麗和」で始まり、会報で締める1年！  
 浦高同窓会会報『麗和』の編集会議が12月6日(木)にあり、第67号のページ割と担当者が決まりました。編集委員は、30年以上にわたり『麗和』の編集に関わられてこられた星野和央様(4回、さきたま出版会会長)、同窓会事務局の藤野龍宏様(22回)、篠田雅彦様(32回)、今年から新たにご参加いただいた門脇正法様(37回、マンガ原作者・スポーツライター)、8人の浦高校内幹事(浦高OBの浦高教員)の皆さんと私の13人で20ページの会報の原稿を作成したり、寄稿を呼びかけたりして4月発行を目指しています。編集会議が終わると、寄稿いただく方々にご連絡をして了解を得て、1月後半に原稿を出していただくのですが、私は自分で書く部分もあり、年末年始は原稿づくりに励む時期でもあります。[写真は2023年発行の会報『麗和』第66号]



今年のスタートも会報『麗和』の編集の傍らで現役浦高生たちの活躍を新聞で拝見しエールを綴りました。3月には初校友会議(3回目会議)の様子を綴っています。

また、8月には浦高1回卒業の菅野一郎様の体験談「深夜の屋上、学徒兵が口ずさんだ英語の「きらきら星」…夜空見上げると思い出す動員下の青春」という読売新聞の記事を拝見して2019年に特集した『麗和/第62号』で綴った《浦高一きのう・きょう・あす⑥「旧制浦中から申請浦高へ 戦中から戦後への移行期を振り返る……中学47回から高校4回の時代」》(下写真)を思い出しました。旧制浦中に入学され新制浦高で卒業された皆さんです。



- ★「コロナ禍こそその思い出を大切に！」1/7、No.6248
- ★「何事も『遅い』ということは・・・！」3/9、No.6321
- ★「先輩たちの話に耳を傾けて・・・！」8/17、No.6468

●私のバックボーンは春日部地区浦高会です！

最近では浦高同窓会の副会長を仰せつかっている関係から同窓会全体の情報発信が多くなっていますが、私のバックボーンである春日部地区浦高会の活動を疎かにすることはございません。3月には賀詞交歓会、9月には総会、6月と12月には幹事会を対面形式で開催することができました。11月には会長として大宮浦高会創立45周年記念総会にも参加させていただき、大いに学ぶものがありました。春日部地区浦高会の会報『喫茶去』も12号を配信することができ、2次情報の多い『夏炉冬扇』と使い分けながら会員の皆様に情報発信しています。



5月には、会員の松本伸一様(13回)の訃報が届き、当会の創立20周年記念誌『喫茶去～特別編』に収められていた寄稿文と昨年上梓されたご自身の作品集『松本伸一作品集 陶芸を見つけた道 今生きて在ることを楽しみ歩む』で偲びました。6月4日には幹事会を開催し対面形式での総会復活を決めました。20日には、会員の坂本正博様(16回)が実行委員長を務められた「第19回 杉戸アースデー」のことを綴りました。

9月3日には「春日部地区浦高会 令和5年度総会」を、野辺博・浦高同窓会長(24回)、平井隆一・湘南浦高会会長(21回)、篠田雅彦・浦高同窓会事務局長(32回)にご臨席いただき賑やかに開催しました。

12月3日には幹事会を開催し、2024年の9月総会までの予定を話し合いました。



- ☆喫茶去「皆さんからの近況報告を聞いて！」3/8、382
- ☆喫茶去「いま生きて在ることを愉しむ！」5/24、385
- ☆喫茶去「今年も『浦高さん』活動が始まり！」6/5、386
- ★「週末は『第19回 杉戸アースデー』」6/20、No.6419
- ☆喫茶去「知恵と気遣いの『世代間継承』」9/4、389
- ☆喫茶去「45年の歴史の重み、さらに次へ！」11/12、391
- ☆喫茶去「春日部地区浦高会、2024年へ！」12/5、393



### ●浦高同窓会の会議録を綴って

一般社団法人 埼玉県立浦和高等学校同窓会では、6月の社員総会、それに伴い3月理事会では予算審議、4月理事会では決算審議、10月理事会では進捗管理の会議、8月と1月には正副会長会議といった会議があり、3月には地域職域同窓会責任者会議という会議もあります。そうした会議がある度に春日部地区浦高会の皆様に知っていただきたく会議録を綴り始めて15年が過ぎました。



さらに、4月16日以降は「浦高同窓会事業計画等検討委員会」のとりまとめ役を務めさせていただき7月2日に報告書を取りまとめました。「夏炉冬扇」でも何度か途中経過を綴っていました。

6月25日に開催された「令和5年度社員総会」の様子を綴りました。総会後の講演会は、順天堂大学医学部教授の小林弘幸様(31回)による「最高の人生を過ごすための健康の極意！～自律神経と腸内環境が人生を変える～」でした。ちょうど母が便秘で悩んでおり、腸活のススメは大変参考になりました。



埼玉県男女共同参画苦情処理委員から8月30日に埼玉県教育委員会あてに提出された「県立高校別学校の共学化の早期実現」を求める勧告について、同窓会では10月から議論が始まりました。10月28日の理事会で反対意向を固め、11月23日の臨時社員総会で県知事と県教育庁あてに「共学化反対の意見書」を出すことが承認され、12月1日に野辺博・浦高同窓会会長名で反対意見書を提出しました。現在、会報麗『麗和/第67号』の編集をしており、特集で綴る文章に頭を悩ませています。

- ☆喫茶去「新しい地域職域同窓会も増えて！」3/26、383
- ☆喫茶去「動機善なりや、私心なかりしか！」4/16、384
- ★「不合理で行き過ぎたルール・・・？」6/22、No.6421
- ☆喫茶去「浦高同窓会の令和5年度総会！」6/26、387
- ☆喫茶去「最高の人生を過ごすための健康！」6/27、388
- ★「さまざまな選択肢こそ魅力では？」10/12、No.6518
- ☆喫茶去「浦高同窓会、動き出した初冬の陣！」11/1、390
- ★「埼玉県内の公立高校の共学化！」11/25、No.6553



### ●浦高百年の森活動

ここ数年、寄居町風布の「浦高百年の森」活動に参加できず心苦しい思いをしておりますが、同期の記念樹も成長し、皆勤賞の石田知己様(16回)、竹澤信夫様(19回)、同期の井口巖さん(25回)から活動や森の成長の報告をいただいています。

7月の森ではオーボエ演奏家の渡辺克也様(37回)の演奏が楽しめ、11月の森では声楽家の富田千種様(19回)のバリトンが楽しめたそうです。



春日部地区浦高会会員・夏



富田千種様・秋

★「百年の森にオーボエが響いて！」7/15、No.6446

☆喫茶去「我ら宇内に雄飛し、晩晴を尊ぶ！」11/13、392



### ●浦高25期会も卒後50年を迎えて！

浦高に1970年4月に入学し、1973年3月に卒業した私たち浦高25期会(代表世話人・藤江昌嗣さん)にとって、今年は「卒後50周年」ということで同窓会を開催することになりました。何度かの集まりを経て11月26日(日)に飯島英夫先生(物理)、森朝男先生(国語)のお二人をお迎えし45名で麗和会館での同窓会もでき、幹事の一人としてホッとしています。3月29日に第1回の準備会をスタートし、6月30日、7月14日、9月24日と4回の準備会を重ねての本番でした。来週には世話人数名での反省会が予定されておりますが、私は諸事情で欠席せざるを得ず残念です！

飯島先生の講話の中で「日本はここ数十年、人口も経済も低下・衰退していますが、皆さんが働いてきた40年が日本をダメにしてきたもの…」と。



また4月、同期の若林修さんからここ数年、桜の時期になると「桜便り」をいただき春の喜びを噛みしめさせていただいています。今年は廣瀬隆一さんからは長野県小川村「番所の桜」、山本勝郎さんからも高遠町「金毘羅社の桜」と藤森照信さんの不思議な茶室「空飛ぶ泥船」をご紹介いただきました。同期が毎年盛り上がるのが「桜」ですね。



若林さんからの「桜便り」

廣瀬さん「番所の桜」

山本さん「空飛ぶ泥船」

- ★「卒後50年の同期会への助走！」3/30、No.6343
- ★「桜を求めて1400キロの旅便り！」4/3、No.6348
- ★「何代にも亘り大切にされてきた桜」4/11、No.6354
- ★「藤森茶室では落ち着けない！」4/16、No.6364
- ★「卒後50年記念同窓会・準備会！」9/24、No.6489
- ★「今週末は同期で卒後50年同窓会！」11/20、No.6550
- ★「恩師から厳しい意見もありました」11/28、No.6555
- ★「胸襟を開いて昔に思いを馳せて！」11/28、No.6556

◆ ◆  
●在校生たちの様子も綴りました。

1月7日には、浦高鉄道研究会が浦和 PARUCO で開催した展示発表会の様子を紹介しました。



4月には2020年に部員がゼロという危機にあった浦高応援団も復活して、



今年テレビ「超無敵クラス」という番組に取り上げられるまでになりました。また、ユニークな授業の記事を紹介、4月15日の「学ば

う産経新聞『生徒が新聞手に取るユニークな仕掛け県立浦和高』、20日には三菱みらい育成財団「浦和高校の『探究』が進化、教員の思考の壁を破った三菱みらい育成財団の助成」がありました。

7月6日には第105回全国高等学校野球選手権記念埼玉大会を前にして、浦高応援団が新聞に取り上げられました。さらに京都大学応援団長を務める卒業生の記事もありました。野球部は埼玉大会1・2回戦を突破し、3回戦で叡明高校に敗れましたが、野球部OBは大いに盛り上がり、私も応援団や選手たちの記事を綴りました。今年は、浦高応援団が新聞やテレビ等でクローズアップされた年でした。

2023年(令和5年)7月6日(木曜日)

## 全力投球の夏 浦高応援団 声絞り鼓舞

「コナ」だ、2年生はほろり泣いた。浦高応援団のメンバーは、練習場を走り回り、声絞り、鼓舞を繰り返していた。6月21日、さいたま市浦和区で、浦高応援団の練習が行われた。

### コロナ禍 一時団員ゼロ

70年以上の歴史がある浦高応援団は、コロナ禍の影響で一時団員がゼロになった。しかし、今年からは、2年生を中心に、練習場を走り回り、声絞り、鼓舞を繰り返している。

浦高応援団の歴史は、1951年に創設された。当初は、男子学生を中心に、練習場を走り回り、声絞り、鼓舞を繰り返していた。しかし、コロナ禍の影響で、2020年には団員がゼロになった。しかし、今年からは、2年生を中心に、練習場を走り回り、声絞り、鼓舞を繰り返している。

浦高応援団の歴史は、1951年に創設された。当初は、男子学生を中心に、練習場を走り回り、声絞り、鼓舞を繰り返していた。しかし、コロナ禍の影響で、2020年には団員がゼロになった。しかし、今年からは、2年生を中心に、練習場を走り回り、声絞り、鼓舞を繰り返している。

- ★「コロナ禍こそその思い出を大切に！」1/7、No.6248
- ★「復活した浦高応援団の雄姿を！」4/19、No.6368
- ★「浦高生や教員の皆様の考えを！」4/21、No.6372
- ★「母校を盛り上げる生徒たちの姿！」4/24、No.6375
- ★「若人に代々引き継がれるエール！」7/6、No.6436
- ★「高校生たちの夏の熱い戦いが・・・」7/11、No.6441
- ★「さまざまな思いを乗せた白球が！」7/14、No.6444
- ★「母校生徒の活躍がドラマとなって！」7/15、No.6445

◆ ◆ こうして1年を振り返ってみますと、同窓会だけでなく、現役生や同窓の皆様の活躍も数多く綴っていました。